

次号予告

特集 企業の変革・成長を支える ERP

経営改革における ERP の役割と期待	大貫一志 (ERP研究推進フォーラム)
三井金属のグループ経営を支える ERP	三井一夫 (三井金属鉱業)
ERP 導入による効果と難易度の実際	熊澤 壽 (デンセイ・ラムダ)
ERP システム導入—快適導入・快適適用を目指して—	宮口家治 (NECトーキン)
ERP 導入とその効果について—中小企業における ERP パッケージ導入と機能改善への挑戦—	佐藤秀次 (タツノメカトロクス)

編集後記

●今月号の特集は「気象リスク」である。「天気まかせ」という言葉にもあるように、従来まで気象現象による「入場者減少」「在庫切れ」その他のリスクは所与のものであり、避けることの出来ないものとされてきた。

●本特集を読み、気象の世界での技術進歩を改めて確認した。短期の気象予測の精度はコンピュータ能力の向上などに伴い飛躍的に進歩した。これにより「POS データと気象データをリアルタイムで組み合わせ、仕入れにおいて在庫や回転率の大幅な効率化を図る」発注インデックスが可能になった。さらに、いわゆる「飲み頃」を「スープ指数」などで定量的に表現し、直接消費者に訴求するマーケティング手法も進められているという。実際のところ、短期オペレーションやマーケティングにおいて、「気象データを数理的に加工して有益な情報を抽出する」という手法は、我々の気づかないところで、すでに非常に広範囲に用

いられていることを改めて認識した。

●一方、半年単位の長期的予報は、まだまだ進歩の余地が大きい。しかし逆に将来の不確実さ（企業収益の変動リスク等）の存在を前提として、このリスクを「天候デリバティブ」等の金融工学的手法で回避することも始まっている。どちらも「数理統計」「金融工学」などによる精緻な分析を必要とし、OR 手法が活躍する分野である。OR 研究者として嬉しい限りである。

●ここでのべた気象の世界での変化は、「コンピュータ技術の進歩などによる予測技術向上」や「民間気象会社を気象関連ビジネスに参入可能にした規制緩和」の果実ともいえる。コンピュータ関連の技術進歩は当面止まることはなく、また規制緩和も緩やかながらも今後とも進んでいくと思われる。この意味で、将来は、現時点では考えもつかなかった「新たな OR の適用分野」が開拓されるのではないだろうか、楽しみである。
(高橋一喜)

オペレーションズ・リサーチ 編集委員会

委員長 杉野 隆(国土館大学)

委員 井階美歩(株 NTT データ)、池上敦子(成蹊大学)、大澤義明(筑波大学)、大村弘之(日本電信電話(株))、岡田 勇(創価大学)、小沢利久(駒澤大学)、住田 潮(筑波大学)、高橋一喜(東京ガス(株))、土屋利明(日本電信電話(株))、所 健一(財電力中央研究所)、中川義之(キャノンシステムソリューションズ(株))、生田目崇(専修大学)、根本俊男(文教大学)、松村良平(東京工業大学)、三浦英俊(明海大学)、村井雅彦(株東芝)

本誌に掲載された記事についての著作権は、社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会に帰属する。

オペレーションズ・リサーチ

平成 16 年 5 月号 第 49 巻 第 5 号 通巻 521 号

代表者 小笠原 暁

発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会
東京都文京区弥生 2-4-16 学会センタービル
電話 03-3815-3351(代) FAX 03-3815-3352 〒113-0032
<http://www.orsj.or.jp/>

編集人 杉野 隆

発売所 株式会社 日科技連出版社

東京都渋谷区千駄ヶ谷 5-4-2 〒151-0051

●本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ 定価 970円 (本体 924円) 年間予約購読料 11,040円 (税込)

●本誌への広告お申し込みは明報社 (3546-1337) へ